

読 響

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

Pétrouchka

春に咲く、儚き残酷な恋。
夢か現か、ペトルーシュカ。

鮮烈な音楽で魅了する“新時代の旗手”

鈴木 優人 指揮

MASATO SUZUKI, Conductor

ラモー：歌劇「優雅なインドの国々」組曲（鈴木優人編）
RAMEAU: “Les Indes galantes” Suite (arr. M.Suzuki)

ショパン：ピアノ協奏曲第2番 へ短調 作品21

CHOPIN: Piano Concerto No. 2 in F minor, op. 21

ストラヴィンスキー：バレエ音楽「ペトルーシュカ」

STRAVINSKY: Pétouchka (ver. 1947) (1947年版)

読売日本交響楽団 第621回 名曲シリーズ

2019 4/4(木) 19:00 サントリーホール

Popular Series, No. 621 / Thu. 4th Apr. 2019 19:00 / Suntory Hall

S¥7,500 A¥6,500 B¥5,500 C¥4,000 完売

読響チケットセンター 0570-00-4390(10時～18時・年中無休)

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団



溜息の出るほど繊細で
美しい音色を持つ新鋭

レミ・ジュニエ ピアノ

RÉMI GENIET, Piano

ラモーからストラヴィンスキーへ！ 鈴木優人が鮮烈に響かせる 時代の革命児たちの音楽

■ 鈴木優人は、今後の日本のクラシック音楽界を変える存在になる。彼の活動を見ていると、そんな高揚した思いに駆られる。長らくパッサ・コレギウム・ジャパンの鍵盤奏者を務め、18年9月には同団の首席指揮者に就任。指揮者として17年8月には読響〈三大交響曲〉でも成功を収め、国内各地の楽団に客演している。世界的ヴィオラ奏者タメスティとのデュオでチェンバロを弾き、欧州各地で演奏。調布国際音楽祭のエグゼクティブ・プロデューサーを務め、更に作曲家としても活動するなど、マルチな才能で八面六臂の活躍を見せている。

■ 今回の読響《名曲シリーズ》では、3つの曲目を指揮する。まずは、1735年にパリで初演されたラモーの歌劇『優雅なインドの国々』組曲を鈴木自らの編曲版で華やかに幕開け。ラモーは、後期バロック時代のフランス最大の作曲家。和声の理論を確立した人でもあるが、極めて色彩的で柔らかく楽しい音楽が特徴だ。今回、鈴木はチェンバロで通奏低音を弾きながら、バレエ曲を中心に有名な「未開人の踊り」などを演奏し、「ミュゼット」で締めくくる。

■ 続いて、フランスの新鋭ピアニストのレミ・ジュニエを独奏に迎え、ショパンのピアノ協奏曲第2番を披露する。第3楽章はポーランドの民俗舞踊であるマズルカを基にしたもの。ラモーの時代から約100年の時を経て、ショパンの音楽と「踊り」で繋がる。なお、ショパンはピアノ協奏曲第2番を書き上げた約1年半後、パリに住むことになる。今回、瑞々しく透明感のある美しい音が魅力のジュニエ（パリ在住）が、ショパンの名旋律を歌い上げる。

■ 後半に演奏するストラヴィンスキーのバレエ音楽「ペトルーシュカ」は、ショパンの初演から約80年後にパリで生まれた作品。人形ペトルーシュカの儚い恋によるシュールでグロテスクな物語。鈴木は「『ペトルーシュカ』には、ラモー『優雅なインドの国々』の音楽を連想させるところが多い」と語る。全4場に渡り、16曲の変化に富んだ曲が、鈴木のとくで色彩鮮やかに生き生きと描かれる。鈴木は指揮は、読響の各楽器から躍動感あふれる音を引き出し、当時ストラヴィンスキーがパリで生んだ衝撃を、明らかにするだろう。

©Marcq Borggreve

鈴木 優人(指揮) MASATO SUZUKI, Conductor

マルチな才能で時代を切り拓く気鋭のアーティスト。1981年オランダ生まれ。東京芸術大学作曲科を経て同大学院古楽器科修了。オランダ・ハーグ王立音楽院修了。鍵盤奏者(チェンバロ、オルガン、ピアノ)として国内外で活躍。昨年9月パッサ・コレギウム・ジャパンの首席指揮者に就任。音楽監督を務めるアンサンブル・ジェネシスでも意欲的なプログラムを展開。17年にはモンテヴェルディの歌劇「ボッペアの戴冠」を指揮し、高い評価を得た。調布国際音楽祭のエグゼクティブ・プロデューサーを務めるほか、作曲家としても活動。NHK-FM「古楽の楽しみ」にレギュラー出演中。読響には16年6月の「読響アンサンブル・シリーズ」で鮮烈デビューを果たし、17年8月の「三大交響曲」で大きな成功を収めた。

レミ・ジュニエ(ピアノ) RÉMI GENIET, Piano

瑞々しい感性で世界各地の聴衆を魅了するフランスの新星。史上最年少でボン国際ベートーヴェン・コンクールに入賞し、僅か20歳で2013年のエリザベート王妃国際コンクール第2位に輝いた。これまでにクリヴィス、デ・ワールト、ローレルらの指揮で、サンクトペテルブルク・フィル、スイス・ロマンダ管、ベルギー国立管などと共演している。ラ・ロック・ダンテロン音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ音楽祭、モンペリエ音楽祭、コルマル音楽祭など国際的な音楽祭でも活躍。デビュー CD「オール・パッサ・アルバム」は、フランスの権威ある年間最優秀ディ・アパゾン・ドール賞を受賞。今回が読響初登場。

©Jean-Baptiste Millot

読響日本交響楽団 第621回 名曲シリーズ

2019年 **4月4日** (木) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,500 / A ¥6,500 / B ¥5,500 / C ~~¥4,000~~ 完売

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

■ 学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■ 都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。■ 未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時~18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料

プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017